

令和6年度 第3回学校運営協議会 報告

静岡県立静岡農業高等学校

1 開催日時

令和7年1月31日（金） 13時30分から15時30分まで

2 開催場所

静岡県立静岡農業高等学校 会議室

3 出席者

- (1) 学校運営協議会委員4名
- (2) 学校教職員9名

4 次第

- | | |
|----------------------------------|----------|
| | (進行 副校長) |
| (1) 開 会 | 13:30 |
| (2) 校長挨拶 | 13:30～ |
| (3) 令和6年度外部評価について（副校長） | 13:35～ |
| (4) 学校経営計画の実施報告、自己評価（校長） | 13:40～ |
| (5) 令和6年度学校経営計画、指導方針・取組の実施報告 | 14:00～ |
| ア 学習指導の指導方針、取組の実施報告、自己評価（教務主任） | |
| イ 生活指導の指導方針、取組の実施報告、自己評価（生徒指導主事） | |
| ウ 進路指導の指導方針、取組の実施報告、自己評価（進路指導主事） | |
| エ 保健指導の指導方針、取組の実施報告、自己評価（保健主事） | |
| オ 農業指導の指導方針、取組の実施報告、自己評価（農場長） | |
| (6) 学校評価アンケート集計結果（副校長） | 14:30～ |
| (7) 本校関連記事について（副校長） | 14:40～ |
| (8) 質疑応答と意見交換(これからの静農に期待すること) | 14:45～ |
| (9) 閉 会 | 15:30 |

5 質疑応答の内容（これからの静農に期待すること）

【委員A】

現在、大学が入りやすくなったり、人材不足で色々な就職先に行けるなど、売り手市場な面がある。しかし、進路決定が楽になったから進路先を安易に決めるのではなく、しっかりと先生方が対応していることがわかり安心した。

大学でも学生のマナーやモラルの低下について問題になっている。本年度、貴校の遅刻者が少し増えているが、遅刻者への指導はどのようにしているか。

【教頭】

遅刻をすると遅刻カードを書き、副校長や教頭にカードを持っていくシステムである。その際、遅刻の理由等について生徒と話をするように心がけている。例えば、「寝坊した」と聞けば、「寝坊して慌てて学校に来ると、事故にあったりするからもう少し早く起きられるように頑張ろうね。」と一言かけて教室に行かせる。

【委員 A】

その対応が大事だと思っているため、是非継続していただきたい。

アルバイトについて、今年度から許可制になっているが、想定よりも多いのか。

【校長】

最初は少ないと思っていたが、最近は周りの生徒がやり始めた影響からか増えてきた。

【委員 A】

夜は何時までやることができるのか。

【校長】

時間が決まっていて 20 時までということになっている。

【委員 A】

アルバイトが理由で遅刻者が増えたということではないようだ。

【教頭】

21 時には家に帰るということになっている。

【委員 A】

インスタグラムを見て農業高校の魅力や題材を発信していくということが重要になってくる。貴校は普通科にはない素敵な宝物を持っている。少子化のなか、高校を存続させるためにはどうするのかを考え、農業高校としての魅力の情報発信に力を入れ、社会に認知してもらうことが重要である。組織のなかにいると自ずと周りに知ってもらえると思いがちであるが、実はそうでもないことが多々ある。地域貢献の面では、企業と提携して学びを広げているが、企業にとっては地元の生徒に自社を知ってもらうことに繋がり、ウィンウィンの関係にある。

【委員 B】

貴校の生徒が、8月の農協の青年・壮年大会に来て意見発表を行った。非常に素晴らしい発表で、感動した。今の若手の農家にとって、農業で地域のブランド力を上げるという、非常に頼もしい高校生の発表を聞き、刺激を受けた。発表は生徒や指導者等の努力の賜物だと思い、感動した。私たちも頑張らなければいけないという気持ちになった。

夏の暑さのなか、授業や野球応援は大変な状況になっている。人間だけでなく、農業も気候変動の影響を受けている。夏の高温化は生徒の安全・安心だけでなく、農場にある作物の安全・安心に関わる問題であると思う。そのようななか、秋冬野菜は順調に育てているようですすごいと思った。栽培の指導等、気候によって変わっていく指導はあるのか。

【農場長】

今年の夏は非常に暑かった。ここ数年で、農場の方の教室にもエアコンを配置しているが、まだ全教室には配置されていない。熱中症のアラームなどを各場所に置き、基準以上になったら無理な作業はしない方向性について情報共有している。生徒の安全・安心を確保し、短時間で効率よく作業をするように心がけている。本校の研究で、さつまいもの蔓差しの時期を遅らせて植え芋が太るかという研究が行われている。教員や生徒自身が作付

けに関してどの時期にずらしたら収量をあげられるのかの研究を始めている。今年はカメムシが多く、柑橘においても防除の方法も考えなければいけない。「オニヤンマ君」等を導入することも検討する。技術的なことに関しては、もし良い情報があったら私たちも教えてもらいたい。次年度以降も続くようであれば研究していきたい。

【委員 C】

農業法人への就職はどのような状況か。

【進路課長】

就農はない。JA 静岡や JA しみずに就職している。ただ高卒で農業関係の仕事はあまりなく、農業をやりたい生徒は静大や環境専門職大学、東京農大等に進学し、将来、農業関係の仕事に就くことを目指している。

【校長】

専門職大学から種苗会社などに行く卒業生は多い。農業生産法人の集まりに行き、情報交換した。静大・環境専門職大から採用する法人が多く、高校への求人は少ない。企業側の採用方針も変わってきており、高卒で採用し育てた方が定着率も良く会社への貢献度も高い。企業側も変わってきており、職種も総合職とか、今までは大学生に出していた求人を高校生に出している。農業をやりたい生徒は、確実に増えている。専門職大学に行きたい生徒は、農業系の仕事に就きたいと思っている。公務員も入りやすくなっていること、担当の先生も頑張っていることがあり、関東農政局に2年連続で2人ずつ入っている。

【農場長】

生産法人の方と話す機会があった。「即戦力で考えると専門職大学を出た方のほうが良い。高校生に対して求人を出そうかと思う時もあるが、出しても高校生が来ない。給与面で昨今の給与上昇と比較すると生産法人の給与の設定を大幅に上げることが難しく、進路サービスのハンディなどで比べると給料が安すぎ、選択肢から消えてしまう。最近はシルバーの方が生産法人に来て頑張っている。現場と繋がり部分を整えてくださる方が出てこない」と農業高校から自営以外のところに行くのは難しい。

【委員 C】

農協には県農業法人協会があり貴校とは定期的に意見交換などをさせていただいている。法人協会 130 社あるが、農業高校や専門職大学からきた人材は即戦力になる。貴校は、県内農業関係高校 11 校の中でも、リーダーシップを持っている。我々の思いは、毎年 1500 軒くらいの販売農家が減少しているなか、一人でも多くの担い手の方を現場に送り出していただくこと等であり、農業教育に期待している。

【委員 D】

お茶を作っているが、肥料が値上がりし、燃料が値上がりし、お茶を製茶にするにも燃料代や人件費が掛かり、採算が取れない。静岡市の中山間地の急傾斜地にある茶畑に補助金を地区でいただいている。私の住む地区では、鹿の被害でお茶の新芽を食べられてしまう。その対策がこれからの課題だと思っている。シイタケを作って囲いをしていてもいかかわらず、収穫の前にサルに食べられてしまうということがある。イノシシもおり、筍を食べてしまう。今、鳥獣害の被害がひどくなり、悩ましいところではある。新規就農する人が仕事をしやすい環境ができると良いと思う。